

なとセン登録団体活動紹介

一般社団法人ふらむ名取



法人として新たな船出

「一般社団法人ふらむ名取」は、平成 29 年 4 月に「閑上復興だより」、「閑上震災を伝える会」と「名取交流センター」の 3 団体が合流し設立されました。活字での伝承であった「閑上復興だより」を「閑上だより」に改名し、新しい閑上として前進を続けている街の魅力を発信しています。また、閑上の震災伝承や、自然災害に関する教育・研修実施、地域での新しいコミュニティ構築を目的とした活動をしています。これまでの活動を基盤に法人化したことは、より高い信頼と多くの支援が得られ、追い風に乘った「ふらむ名取」の新たな船出となりました。

「ふらむ」の由来は、1893 年北極海で、氷河の中を 3 年間漂流したのち、自力で脱出帰港を果たした奇跡の船「フラム号」からきています。

自立へのサポート

震災復興住宅集会所で交流支援として実施していた会に参加した一人暮らしの高齢者の方々が、打合せから、私は足が悪いけど米研ぎはできる！漬物持ってくる！味噌汁作れる！と声が挙がります。当日は、「人の顔を見て食べたのは何年ぶりだろう」と喜びあう姿を見て、大災害後は難しいコミュニティ再構築に活かせるのでは!?と思い立ち定例で実施しているのが「茶話会」です。

実は閑上には、湊神社例大祭、地区民運動会など大小数々のお祭りで集結し盛り上がる文化・歴史があります。その住民本来の活力や自発性を導き出す仕掛け役として自立型のサポートを行っています。

活動継続の原動力

閑上出身の格井直光代表は、令和元年、閑上小中学校で閑上の魅力と歴史を伝える機会がありました。その際、子ども達から「もっと閑上のことを教えてください！」という声が止まらず胸が熱くなったと話します。後日、学校から届いたメッセージブックには故郷を愛する純粋な気持ちと感謝の言葉が綴られていました。このような交流こそが法人活動の原動力になっています。未来を担う大切な子ど

も達へ自分の命を守る知識と術を語り部（言葉）としても伝え続け、そして全ての人に必ずまた来る災害でも避難することに理論や理由付けせずに逃げて、命を守ってほしいと言葉にも力が入ります。

令和 5 年度、震災伝承語り部に参加した方は 3 年前の 3 倍以上となる 3,600 人程で、海外からの参加者もあります。



生徒達からのメッセージブック

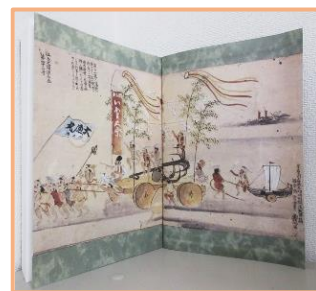


新たな取り組み

ふらむ名取は令和 5 年度に名取市協働提案事業（行政提案型）で、ゆりあげ丸に乗船し閑上浜を見ながらの語り部を、観光で訪れた方々に実施しています。また、昭和 52 年に発行された「閑上風土記」は東日本大震災の津波で流失した多くの方々から復刻の要望があり、令和 5 年に完全復刻版を刊行しています。閑上の歴史と文化を後世に伝え、新しい閑上へ寄与したいとの思いが込められています。震災語り部や講演依頼、会員申込等については法人の HP をご覧ください。



完全復刻版



閑上浜大漁祈願 見返し絵図

問合先：一般社団法人ふらむ名取
電話：090-3583-1359（代表：格井）
Mail：natorijapan@gmail.com
HP：https://www.framnatori.com